

## 伊賀市立緑ヶ丘中学校の生徒が

### 『服部橋新都市線[街路]道路整備工事』

を現場見学しました。

令和3年10月22日（金）、27日（水）及び28日（木）に『服部橋新都市線[街路]道路整備工事』の現場において、三重県建設業協会伊賀支部と三重県伊賀建設事務所が共催で現場見学会を行い、伊賀市立緑ヶ丘中学校の2年生約200名が参加しました。

緑ヶ丘中学校の生徒たちは、現場見学に先立ち、令和3年10月18日（月）にテレビ会議により主催者から建設業の役割や『服部橋新都市線[街路]道路整備工事』の整備概要等の説明を受けました。

現場では、実際に工事で使用する施工機械への乗車や、機械による土の締固めを体験したり、また、ドローンを使った最新の技術説明では興味深く聞き入っていました。

#### 【事前説明会（令和3年10月18日（月））の様子】



#### ～ 感想 ～

- 工事だけでなく、災害時の復旧作業などもされていることを初めて知りました。被災した道路を1週間くらいでなおしたという話を聞かせていただき、すごいなと思いました。
- 寒暖差が激しい季節の中でも毎日工事をされているのが、すごいと思いました。また、がんばって作った土台が次の日に雨で壊れてしまってもまた作り直すというお話を聞いて、心が強いと思いました。
- 今まで、あまり興味がなかった職業でも、見学したりお話を聞かせてもらったりすることで自分の選択肢を増やすことができると思いました。私も真剣に仕事ができる人になりたいです。

## 【三重県建設業協会伊賀支部長のあいさつ】



## 【現場作業の見学】

- 側溝の据付け方法の説明を聞きながら、実際の据え付け現場を見学しました。



—据付け方法の説明を聞く生徒達—



—機械が動き出し作業に見入る生徒達—

### ～ 感想 ～

- 以前の道は狭くて通りにくかったり、でこぼこしているところがあったりして、歩くのが危なかったけど歩きやすい安全な道路になっていてすごかったです。出来上がるのが楽しみです。
- 少しでもすべたらいけないし、難しい仕事だと知りましたが、だからこそおもしろそうだと思います。作業をするのに、声をかけあって1つのものが出来上がっていて、コミュニケーションを大事にしていることがわかりました。
- 側溝の段差が、ほぼなくなっているのを見て、自転車で走りやすそうでいいなと思いました。歩いている人のことや自転車の人のことも考えて作ってくれていることがうれしかったです。出来上がったならそんなことも思いながら感謝して通ろうと思いました。
- 今まで、工事をしている所があっても、あまり深く考えたことがなかったけれど、見学したり、お話をきかせてもらったりしたので、いろんなことが知りたくなりました。

## 【ドローンの説明】

- ドローンの操作方法や利用方法についての説明を聞きました。



—ドローンの飛行を見る様子—



—ドローンからみた生徒達—

### ～ 感想 ～

- 本格的なドローンを見たのは初めてで、すごく感激しました。専用の資格がいることも初めて知りました。
- 新しい技術が進んでいると思いました。ドローンで撮影された映像で、人の視点以外から周りを見ることができるので、作業の効率も上がると思いました。

## 【測量機器の操作】

- 測量機器の操作説明を受け、実際に測量機器の操作体験をしました。



—測量機器の説明を受ける様子—



—測量機器を操作している生徒—

### ～ 感想 ～

- 測量の体験はとても楽しく、分かりやすいように説明をしてくれました。穴をのぞくと、すぐそこにあるように見えたものが、実際には 10m も先にあり、とても不思議でした。
- 最新の測量機器を使って測量体験をさせていただきました。レーザーが返ってくるまでの時間で距離を測っているようですが、メジャーで 10m 測った距離を、測量機器で測ってみると 9.999m だったので、すごく正確に測れていてかなり便利だと思いました。



## 【施工機械への乗車】

- 施工現場で実際に使用されている機械に乗車体験しました。



—機械の操作説明を受ける生徒—



—緊張しながらの乗車体験—

### ～ 感想 ～

- 普段、乗ったり触ったりすることができない重機に実際に乗ることができてとても楽しかったです。
- ショベルカーの大きさが1番印象に残っています。中から見える景色がとてもよかったです。重そうなコンクリートを持ち上げていてすごいと思ったし、それを設置する技術も必要だと思いました。

## 【土の締固め機械の操作体験】

- 小型の締固め機械を使って締固めの体験をしました。



—恐る恐る触っている様子—



—転圧機械を体験中—

### ～ 感想 ～

- 土を固める作業が一番興味がありました。その固めた土の上に道路ができあがったときにはすごく感動するだろうと思いました。
- 締固めの体験をして、手に伝わる振動がすごくて手がしびれました。締固め機械が通るだけで一度で固められて、力はあるけど便利だと思いました。

～ 事前説明会での質問及び回答（抜粋） ～

質問 1：整備する場所や道はどのように決めるのですか？

回答 1【伊賀建設事務所】

伊賀管内の道路では狭く危険な箇所や通行に不便な箇所があり、これらの中から優先度を考えて整備する箇所を決めています。

質問 2：道路を作ると決めたときからその道路を歩けるようになるまでにどんな仕事がありますか？

回答 2【伊賀建設事務所】

大きくは、道路をどのような形状にするかなどの計画の立案と、その計画に基づき工事を行うという、2つの仕事があります。

質問 3：道路工事中にハプニングなどありますか？

回答 3【(株)竹島建設】

機械で道路を掘っているとき予定していないところから土管が出てきて工事の予定が変更になったことや、仮設の信号機が雷の影響で動かなくなったことがあります。また、山の中で工事をしているとき工事用の鉄板が朝来たら無くなっていたこともあります。

質問 4：なぜこの仕事をしたいと思ったのですか？

回答 4【伊賀建設事務所】

中学生のときにトンネル工事の見学会に参加し、土木に興味を持ち、大きなものを作りたいと考えるようになり、この仕事に携わりたいと思いました。

【(株)竹島建設】

父が建設業をしていて私は建設業にたずさわるのが当たり前とっていました。

小さいころ働いている人たちが楽しそうに仕事の話をしているのも印象に残っています。

質問 5：この仕事をしていてうれしかったことや、やりがい、つらかったことや大変なことは何ですか？

回答 5【伊賀建設事務所】

完成後、地元の皆様から、感謝の気持ちを言われたときがうれしく、やりがいも感じます。つらいことや大変なことは、工事が計画通りに進まないことです。

【(株)竹島建設】

嬉しかったことは、今まで遠回りしていた道路が新しい道路になって便利になったと言ってもらった時や、台風による土砂崩れで通行止めになった道路を急ピッチで工事をして開通した時です。やりがいは、計算して作った構造物が計算通り出来上がった時や、苦勞して作った道路が完成した時に感じます。つらいのは、構造物が計算通り出来上がらない時で、大変なことは、大雨によりせっかく機械で掘ったところが朝来たら崩れていたことなどです。